



農作業メモ

パイプハウスを守るために

1 補強対策

雪害に強いハウスの構造は、①単棟ハウスが望ましい。②パイプ径は22ミ以上、③パイプの間隔は45センチ以下が歪みにくい事等が県の調査で分かりました。次のような対策も有効です。

(1) タイバーによる補強

タイバーを設置することで風への耐力や雪積強度が向上します。設置にあたっては、軒から1/4の高さの位置に、



写真1 タイバーによる補強

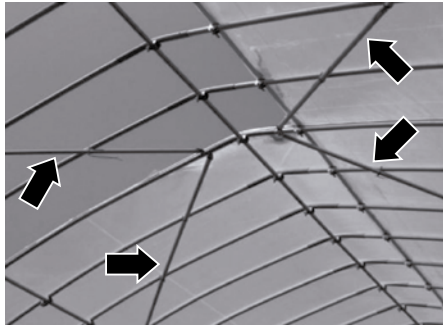


写真2 X字型の斜材

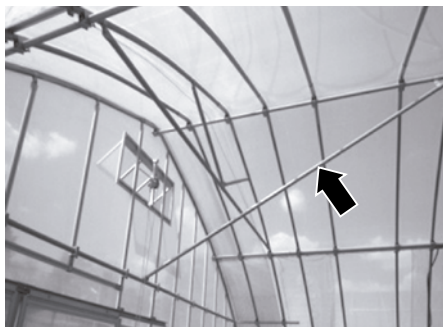


写真3 方杖による補強

4スパーンに1か所程度の間隔で取り付けます(写真1)。

(2) 筋交いによる補強

筋交いは、ハウスを剛強に固め、耐力を向上させます。設置場所は、妻面4隅やハウス中央部が望ましく、各アーチパイプと部品等で固定し、下部は地面に30センチ以上埋めます。

この他に、X字型の斜材や方杖を設置すると強度が増します(写真2、3)。

(3) 根がらみによる補強

根がらみとは、地際下に、「根がらみ直管」と「各アーチパイプ」を部品等で固定した補強のことです。

まだ地盤の落ち着いていない建築直後のハウスの、強風による浮き上がり防止対策としても有効です。

(4) その他の対策

強風対策としては、アンカーや外部補強金具等を設置し、妻部への防風ネットの展張による補強をします。

隙間のできやすい部分やめくれやすい部分をスプリングやパッカーで固定します。

定します。

2 大雪が予想されるときには

ビニール等被覆フィルムの破れや隙間がないか点検し、必要に応じて補修します。

ハウスバンドや被覆フィルムの留め金、ブレースな

どの緩みがないか点検し、必要に応じて、筋交い、補強支柱を入れ補強します。

また、ハウスの開口部を全て閉め切り、風が入らないようにしましょう。

暖房機や燃油残量、電気配線等を確認し、燃油残量が少ない場合は、補充しておきます。

なお、強風による飛来物によって、被覆フィルムが損傷しないように、日ごろからハウス周辺の整理整頓を心がけましょう。

3 日常点検とメンテナンス

構造のゆがみ、被覆フィルムの破れや隙間、サビや腐食、金具の緩みなど、普段から点検し、必要に応じて補強しておきましょう。

ハウス周辺の排水路を整備し、湿害対策と基礎部分の軟弱化を防止しておきましょう。

補強対策の事例は、埼玉県農業支援課作成「大雪による園芸用ハウスの被害調査結果と対策」を参考にしました。

(大里農林振興センター農業支援部)